allcinema

遺体　明日への十日間（2012）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 Color
時間 105分
初公開日 2013/02/23
公開情報 ファントム・フィルム
映倫 G

【キャッチコピー】
2011年3月11日
あの未曾有の災害に直面し
困難な状況と向き合った人々がいた

彼らには、
悲しむ時間さえ無かった

【解説】
「踊る大捜査線」シリーズの脚本や「誰も守ってくれない」の君塚良一監督が、石井光太のルポルタージュ『遺体 震災、津波の果てに』を自ら脚本と監督を手がけて映画化した衝撃の実録ドラマ。東日本大震災で未曾有の被害を受けた釜石市で遺体安置所として使われた中学校の体育館を舞台に、次々と運び込まれる遺体の数に打ちのめされながらも、犠牲者の尊厳を守りながら少しでも早く遺族と再会させるべく身元確認作業に当たった人々の懸命な姿を見つめていく。主演は西田敏行、共演に柳葉敏郎、國村隼、佐野史郎、佐藤浩市。
2011年3月11日、東日本の太平洋沿岸を大規模な津波が襲い、岩手県釜石市にも甚大な被害が発生する。一夜明け、一向に被害の全容が把握できない中、廃校となった中学校の体育館を遺体安置所として使うことが決まる。ほどなく、その遺体の多さに誰もが言葉を失ってしまう。医師や歯科医師たちによるいつ終わるとも知れない検死作業が続く中、民生委員として働く相葉常夫が遺体安置所を訪れ、ボランティアを願い出る。かつて葬儀関連の仕事をしていた相葉は遺体の扱いにも慣れ、遺族の気持ちも理解できた。運び込まれる遺体一人ひとりに優しく声を掛け、決して尊厳を損なうことなく接するその姿は、作業に当たる職員たちの模範となり、いつしか遺族たちにとっても心の拠り所となっていく。

【クレジット】

監督	君塚良一	
製作	亀山千広	
エグゼクティブプロデューサー	種田義彦	
プロデューサー	高橋正秀	
	古郡真也	
	清野真紀	
	前田久閑	
協力プロデューサー	高井一郎	
	河端由梨子	
原作	石井光太	『遺体 震災、津波の果てに』（新潮社刊）
脚本	君塚良一	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

撮影	栢野直樹	
美術	山口修	
編集	穂垣順之助	
音響効果	柴崎憲治	
音楽	村松崇継	
録音	柿澤潔	
	高須賀健吾	
照明	磯野雅宏	
記録	中田秀子	
ＶＦＸ	山本雅之	
監督補	田澤裕一	
出演	西田敏行	民生委員・相葉常夫
	緒形直人	葬儀社社員・土門健一
	勝地涼	釜石市職員・及川裕太
	國村隼	住職・芝田慈人
	酒井若菜	歯科助手・大下孝江
	佐藤浩市	医師・下泉道夫
	佐野史郎	市長・山口武司
	沢村一樹	釜石市職員・松田信次
	志田未来	釜石市職員・照井優子
	筒井道隆	釜石市職員・平賀大輔
	柳葉敏郎	歯科医師・正木明
	西原亜希	
	長野里美	
	押田佐代子	
	佐藤幾優	
	長村航希	
	おぎのきみ子	
	小橋めぐみ	
	佐藤恒治	
	松本たけひろ	
	中田春介	
	河原康二	
	立石涼子	
	おかやまはじめ	
	田鍋謙一郎	
	河野安郎	
	嶋本勝博	
	中脇樹人	
	宮平安春	
	広瀬剛進	
	板垣雄亮	
	南好洋	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.